





# アイヌ語ネコンネコン

うん どう かい      なん      い  
「運動会」って何て言うの？

さっぼろし      はっさむひがししょう      ねん      ささこしえ  
札幌市・発寒東小6年      笹子思会さん

  
瀧口:今日のお題は「運動会」です。札幌の小学校では5月といえは運動会！だそうです。昔のアイヌ民族には運動会と呼ぶような行事はなかったけど、もちろん競い合うことはあった。さて、何て言うかな？

  
北原:例えば、徒競走は「ウニタンパクテ」。ウは「おたがいに」、ニタンは「速く走る」、パクテは「～を比べる」。競争という言葉は、走る速さとか玉入れの上手さ、力の強さなんかを比べていると考えることもできるよね。だから、強さや速さを比べる、という意味合いでパクテという言葉を使う。

他の競技だと、幅とび競争は「ウテレケパクテ」。テレケは「はねる」のこと。力比べは「ウキロロパクテ」。キロロは「力」って意味。「ウキロロパクテ」は運動会でいうと、つな引きかな。

瀧口:そうか。「ウ〇〇パクテ(たがいに〇〇を比べる)」という形になっていて、「〇

〇」のところに競うことがらを入れるわけね。  
北原:そう。「〇〇」に「投げる」のヤッキリを入れると、投げ競争「ウヤッキリパクテ」になるね。

瀧口:現代の競技でいうと、遠投とか、ソフトボール投げとか、何かを遠くに飛ばす競争だね。

北原:「ペカンペ エウエトウシマク」という言い方もあるよ。ペカンペ(ヒシの実)をエウエトウシマク(～で競争する)して採るという意味。

瀧口:へえー。ヒシは水草の一種で、秋になると実をつけるから、ぬまや池に舟を浮かべて採るんだよね。おコメといっしょにたくと、おいしい。「今日は、きょうだいでペカンペ エウエトウシマクして採ったわー」とか、言うのかな。

北原:うんうん。今の運動会の競技だと、「パン エウエトウシマク」(パン食い競争)になるかな。

瀧口:おおー、いいね。

ウニタンパクテ  
(おたがいに速く走るのを比べる/徒競走)



ウキロロパクテ  
(おたがいに力を比べる/つな引き)



題字・イラスト      小笠原小夜

ペカンペ エウエトウシマク  
(ヒシの実で競争する)



北原モコットウナシ 1976年、東京都生まれ。ルーツは樺太(サハリン)。北海道大学教授。むかしのアイヌ民族の暮らし、特に言葉、音楽、文学、宗教のことを調べている

瀧口夕美 1971年、釧路市生まれ。阿寒湖畔のアイヌコタンで育ち、幼少期からアイヌのおどりなどを習う。現在は京都市在住で、編集グループSUREという出版社の代表

「〇〇ってアイヌ語で何て言うの?」。小学生から寄せられた質問に、アイヌ民族の2人があーだこーだいうコーナーです。考えた言葉は公式でもなんでもなく、結論もとくに出しません。ネコンはアイヌ語で「どう(言うの?)」という意味です。